

病理診断学 (Diagnostic Pathology)

【責任者/担当者】

〔病理学 病理診断部門〕 廣田 誠一 主任教授

【担当者】

〔病理学 病理診断部門〕 松田 育雄 准教授、井出 良浩 講師

【目的】

- ・実臨床の場で病理診断を適切に活用して疾患の診断・治療に役立てられるようにするために、病理診断の臨床における位置づけを理解する。
- ・主要疾患において病理診断を自ら行うことができるようにするために、基本的な組織所見・細胞所見について修得する。

【科目キーワード】

「病理診断 (Pathological diagnosis)」「組織診断 (Histological diagnosis)」「細胞診 (Cytology)」「病理解剖 (Autopsy)」「術中迅速診断 (Intra-operative frozen section diagnosis)」「免疫組織化学 (Immunohistochemistry)」「遺伝子異常 (Gene abnormality)」

【到達目標(アウトカム)】

- 臨床における病理診断の位置づけを説明できる。
- 病理組織標本と細胞診標本の違いを説明できる。
- 術中迅速診断の意義を述べることができる。
- 病理解剖の意義を述べることができる。
- 主要疾患の病態や臨床像を説明することができる。
- 主要疾患の組織所見・細胞所見・遺伝子異常などを列挙できる。

【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】

- ・基本的な診察法、医療技術、救命救急法を修得しており、全身を総合的に診療するための実践的能力、ならびに医療安全と危機管理の能力を有している。
- ・人体の構造、機能および異常や疾病とそれらの原因、病態、診断、治療に関する基本的な知識ならびに様々な疾病に対する適切な治療法を身につけている。

【概要ならびに履修方法】

主要疾患として、胃癌、大腸癌、肺癌、中皮腫、腎癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣腫瘍、悪性リンパ腫、骨腫瘍、軟部腫瘍、頭頸部疾患(唾液腺腫瘍を含む)、子宮頸部腫瘍、子宮体部腫瘍、

卵巣腫瘍、乳癌、脳腫瘍、皮膚腫瘍、心疾患、血管疾患、腎・糸球体疾患、アミロイドーシスなどについて多数の病理画像を用いて講義形式で説明する。毎講義終了時に、講義内容の理解を深めることを目的とした小テストを行う。

【準備学修ならびにそれに要する時間】

前日までに該当する部分の講義冊子に1時間程度目を通すこと。

【成績の評価方法・基準】

定期試験(基本的には Multiple choice 形式)の点数がほぼ100%であるが、各講義での小テストの結果も参考にすることがある。

(兵庫医科大学学則、教務に関する規程の通り、出席が授業実施時間数の2/3に満たない場合は定期試験・再試験の受験資格を失う)。

【学生への助言】

病変の認識は正常組織の理解の上に成り立つものであり、組織学の知識が重要であることを承知し、あらかじめ正常組織についての理解を深めておくこと。その上で、各病変の特徴の要点を把握すること。

【フィードバック方針】

低正答率問題を中心に試験の解説講義を行う。

【オフィスアワー】

特になし

【受講のルール、注意事項、その他】

特になし

【教科書】

特に指定せず

【参考書】

「組織病理アトラス(第6版)」深山正久、他 編(文光堂)2015年

【連絡先】

2号館 1階 病院病理部医局